

平成21年度事務事業評価シート (20年度実施事業分)

事業番号	06 04 04	中期総合計画主要施策番号	1-04、4-02	担当課	部・課	環境部自然保護課	
事業名	保護対策事業 (自然観察インストラクター派遣事業、自然探勝会事業)			内線	2779		
				E-mail	shizenhogo@pref.nagano.jp		
事業の概要等	事業の目的	県民の自然に親しむ機会を充実させ、自然保護への理解を深める。					
	事業の必要性	[現状(事業の目的との間にどのようなギャップがあるか)] 地域活動や学校の総合学習の時間など、環境学習のニーズは高く、また、県民が自然に親しみ、自然の大切さを学ぶ機会の充実が求められている。 [原因分析(ギャップが発生している原因は何か)] ・自然観察会等において専門的な解説を行う自然観察インストラクター制度の活用の周知と、活動の把握がこれまで十分とは言えない。 ・身体障害者が自然に触れ合える機会が少ない。 [課題の特定(事業の実施により解決しようとする課題は何か)] ・自然観察会等に解説を行うことができる専門家(自然観察インストラクター)を派遣し、環境学習等の取組を支援していく必要がある。また、自然観察インストラクターの資質の向上のための研修会を実施する必要がある。 ・身体障害者も自然に親しむことができるような、障害者向けの観察会を行う必要がある。					
	事業内容	・地域活動や学校等で開催される自然観察会等へ自然解説を行うことができる自然観察インストラクターを派遣する。 ・インストラクターの資質を高め、より充実した解説を行うため研修会を開催する。 ・身体障害者向けの自然探勝会を開催する。					
	実施期間	S54 ~	根拠法令等	自然観察インストラクター派遣事業実施要領ほか			
成果と達成状況	事業の目指す成果	達成度(期待どおり)の判定基準(H20)		達成状況		評価	
	県民の自然に親しむ機会を充実させ、自然保護への理解を深める。	・地域の活動や小中学校等の派遣要請に応じ、観察会等へ自然観察インストラクターを派遣する。 ・前年並みの参加者を集め、自然探勝会を開催する。 ・自然観察インストラクターの資質向上のための研修会を開催し、200名程度の参加を得る。		・自然探勝会は、県内4箇所ですべて347名の参加者があり、昨年度に比べて50人増となった。 ・自然観察インストラクター研修会について、地域ごとの研修会に加えて、解説技術や効果的なコミュニケーション方法の習得を目的とした全体研修会を開催し、計263名の参加者の資質向上を図った。		a.期待以上 b.期待どおり c.やや下回る d.期待以下	
事業コスト	区分	単位	19年度	20年度	21年度(当初)	20年度の概要	
	最終予算額 (A)	千円	1,288	1,008	921	国庫・県単	県単
	決算額 (B)	千円	1,100	1,008		実施方法	直接、委託
	B(H21はA)のうち一般財源	千円	0	0	0	歳出節制	
	概算人件費	人	2.40	2.40	2.40	内訳等	委託料:600 旅費:80 役務費:232
	概算事業費 (B(H21はA)+C)	千円	17,136	17,158	17,158	(単位:千円)	
事業実績	内容	単位	19年度	20年度	21年度(予定)	左記以外の20年度の実績	
	自然探勝会参加人数	人	297	347	300	派遣要請以外の自然観察インストラクターの活動:261回	
	自然観察インストラクター派遣回数	回	67	53	80		
	自然観察インストラクター研修会参加人数	人	125	263	200		
事業の課題	区分	判定・説明					
	事業のニーズの変化	増加	横ばい	減少	判定の説明	・自然観察インストラクター派遣実績は一定の水準で推移しているが、個人で依頼を受けた活動実績も多く、自然解説のニーズは依然として高い。 ・自然観察インストラクター事業におけるNPO等の連携や自然探勝会の事業運営について検討を進める。	
	県の関与を見直す余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	有効性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	効率性を高める余地	余地なし	当面余地なし	余地あり			
	課題の総括	・自然観察インストラクターについては、研修会やニュースレターを通じて資質向上を行うとともに、活動機会の充実を図る必要がある。また、引き続きNPOとの連携などの検討を行う。 ・自然探勝会の事業運営について、効率的な運営方法などについて、引き続き検討する。					